

第5世代移動通信システムにおける インフラシェアリングの拡大を図る特別目的会社に出資

三菱HCキャピタル株式会社(代表取締役 社長執行役員:柳井 隆博/以下、当社)は、本日、国内のインフラシェアリング最大手である株式会社 JTOWER(代表取締役社長:田中 敦史/以下、JTOWER)と同社が組成する特別目的会社「合同会社 JTOWER Infrastructure」(以下、SPC)に対する優先出資契約を締結しました。通信鉄塔の保有とインフラシェアリングを担うSPCは、今後、株式会社 NTTドコモ(以下、NTTドコモ)の保有する通信鉄塔を最大 6,002 基取得する予定です。

今後、グローバルに普及が進む、産業・社会基盤を担うと期待される第5世代移動通信システム(5G)においては、従来の通信システムと比較すると通信基地局がカバーできる範囲が狭く、より多くの通信基地局が必要になると予測されています。海外では、複数の携帯通信事業者が通信設備を共同で使用するインフラシェアリングの普及が進んでいる一方、国内においては、通信事業者による自前での通信鉄塔設置が中心となっており、総務省では、2018年12月に移動通信分野におけるインフラシェアリングのガイドラインを策定し、その普及を推進しています。また、携帯通信事業者においても、通信基地局の設置場所の確保や設備投資の効率化が課題となっており、既存インフラの有効活用、かつ環境負荷の軽減につながるインフラシェアリングに対するニーズはますます高まるとみられています。

このようななか、当社は、2020年7月、JTOWERと資本業務提携契約を締結、当社のネットワークや屋内外の通信インフラへの設備投資に対するファイナンススキームの構築などをもって、インフラシェアリングの発展・拡大のサポートに努めるなど、JTOWERとともに社会的課題の解決に取り組んでいます。

JTOWERは、2012年に創業し、通信インフラの設計・シェアリング事業を展開しています。2020年には通信鉄塔シェアリング事業に本格参入し、地方での通信鉄塔の新設を開始、最近では通信鉄塔のカーブアウト*に係る基本契約を西日本電信電話株式会社(NTT西日本)、東日本電信電話株式会社(NTT東日本)、NTTドコモと締結しています。

当社は、最新技術である5Gを駆使した事業創出の基盤となるSPCへの出資を通じて、インフラシェアリングの拡大、さらには、サーキュラーエコノミーの推進や強靱なインフラの構築、人々の豊かな暮らしの実現に貢献していきます。

* 戦略的に一部の資産等を本体から分離させる経営手法

■ 合同会社JTOWER Infrastructure概要

社 名	合同会社 JTOWER Infrastructure
代 表 者	代表社員 株式会社 JTOWER Infrastructure Holdings 職務執行者 田中 敦史
所 在 地	東京都港区南青山二丁目 2 番 3 号
設 立 年 月 日	2022 年 4 月 18 日
事 業 概 要	通信インフラシェアリング事業
資 本 金	10 万円

■ 三菱HCキャピタルについて

三菱HCキャピタルは、「社会資本／ライフ」「環境・エネルギー」「モビリティ」「販売金融」「グローバルアセット」を注力領域としています。わたしたちは、絶えず変化する社会やお客さまのニーズに応えるべく、地球環境に配慮し、独自性と進取性のある事業を展開することで、明るく希望に満ちた未来社会、豊かな暮らしの実現に貢献していきます。

詳しくは、三菱HCキャピタルのウェブサイトをご覧ください。

<https://www.mitsubishi-hc-capital.com/>

■ 本件に関するお問い合わせ先

三菱HCキャピタル株式会社

コーポレートコミュニケーション部

〒100-6525 東京都千代田区丸の内一丁目 5 番 1 号

TEL 03-6865-3002 (直通)

以上